

松下幸之助の「活力ある組織をつくる」

パナソニックグループでは、かつてない厳しい経営状況の中、4月1日から、事業部制及び4カンパニー制を導入し、その体制で臨む中期計画「Cross-Value Innovation 2015」をスタートさせました。社内外の異なる強みを掛け合わせる中で、全社をあげて、お客様により大きな価値を提供できる企業へ変革してくことを目指しています。

そのためには、社員一人ひとりが経営の主演となって社員稼業を実践するような、活力ある組織へと生まれ変わらなければなりません。

創業者・松下幸之助は、すべての社員が、日々元気に、やりがい、生きがいを持って働くことを願っていました。そのことが個人の成長、ひいては会社の発展につながると信じていました。

1933年に導入した独自の事業部制は、事業部として細分化することで、社員にとって経営を身近なものとし、どのような小さな仕事でも経営感覚を持って働ける人を育ててきました。大企業になっても活力を失わず、人の力を十二分に活かしてきたのです。そして、この自主責任体制は、当社発展の原動力となってきました。

この特別展では、幸之助が、組織を活性化し、皆が生き活きと働くために、社員に対してどんなメッセージを発信し、何を実践してきたのか。さらには、組織のリーダーに何を望んでいたのかを、幸之助自身の言葉やエピソード、さらには幸之助に薫陶を受けた幹部の話を紹介し、展示しています。

皆様方が、それぞれの立場で、自らの能力を発揮して生き活きと働き、活力ある組織をつくる一助になれば幸いです。

松下幸之助歴史館